

# 一超資本支配の経済-科学の真相：

'09/7/30, 8/6.

**0サム定理** (借金と通貨資産が同額膨張縮小する根源)、

**炎熱化地球** (石油消費膨張と最寒北極メタン急峻大規模融解) の双方現実直視！

二つを世界市民にひた隠しでないと彼らの高地位支配体制が危ない、だが放置すると超格差&憎悪世界中での全球生命破滅が待たせよう、となれば既成体制は地位没落よりも全人類道ずれ自殺を選択したとしか結論できない。マスコミも承知で沈黙、彼らも自殺志願。しかるに世界資本体制がひた隠す**気候破滅緊急問題**の現実との両抱き合わせで**富豪私財&地位防衛**のでたらめ支配世界を直すと、世界は一変できる。

[0]: 資本主義の無意識の家畜に品種改良された現代地球市民、だがその反動が今、超逆襲..... :

下々一般市民が理解しないのは**高権力富裕地位者の没落恐怖**(世界不況で従来中産階級没落開始、今では一般市民も没落恐怖)、資本主義発明と資本家発生後の現代文明の裏側一つの最大動機は彼ら**没落防止装置**に徹底した世界体制作り (**世界反共体制=Rockefeller-米軍産 CIA 複合体**)。然るに過去にソ連-東欧と今でも中国と言う共産体制があった、あるでないかと反論があろう、だがそれは逆転戦略、欧米の外に貧しい敵を作り、豊かな己内部の革命を抑圧する為。だがソ連自己解散と中国開放路線では世界全面資本主義体制化、だが今そこでは何がおきてる?!

(1) **大量生産物質快楽文明** 推進こそは市民を政治から経済に関心をそらし、かつ己資本増強の一石二鳥の利として超徹底追求 (**飾り窓国家米国**)

Rockefeller 総資産は全米半分近くとか、常識ならば**国民敵意が集中**、その回避の為の物質快楽文明徹底で眠らす政策が施工されたが、

(2) だがそこには二つの本質的な**超欠陥隠蔽**がなされた、石油過剰消費による**地球規模気候破滅問題**、取り分け緊急の北極メタン破滅問題、一つは負債総額=通貨資産総額の**0サム定理**、**富裕-貧困分裂**と市場有限性による**実物市場成長停止**と結果の**金融破綻**、

(3) 実態は金権支配の偽装民主主義体制; エリートも下層市民も皆、金と言う見えない鎖で誰も首が繋がれてる資本主義の家畜化、

\* 比較的に解放されるはずの**軍警察司法行政公務員**、だが其処には**諜報機関支配**が蔓延り、**見えざる全体主義支配**に貢献という裏仕込み。

米国や日本はまさに見えざるナチス諜報機関-軍事力支配の全体主義国家である。

(4) 上記の重大なる秘密の一般市民への**隠蔽装置=(教育-報道体制)**、そこにもナチス諜報機関支配が、

以下に上記提示の**鍵語**の証拠を明かして見よう。0サム定理の証明は完璧簡明、気候破滅問題は現状気候解析科学の未完で純証明はない?!、だが**状況証拠は強力**です。逆に「**気候破滅問題がないと言う証明**」は不可能と言うべきか!

[1]: **0サム定理**: 如何なる経済取引行為(売買, 借款借入, 通貨発行)で通貨総額は増減しない(**通貨資産総額=負債総額**の純会計定理)。

① A⇌B 両名のサービス、物取引で両者の通貨資産総和額は変わらない、売手の現金増と買手の現金減は完璧に同額。両者総和は不変。

② A⇌B 両名の**借款借入**で両者の通貨資産総和額は変わらない、現金を手にした者は同額マイナス資産=債務、貸した者は現金減だが同額債権。

\* 問題は債務不履行、担保回収では(1)に相当の実物資産流動売買相当と債権債務消滅での相殺。

③ 中央銀行は印刷で通貨発行するが、それは自己負債と市中貸出債権で相殺、発行札償還では最終的にゴミ処分での0に戻る。

④ 現金手持ちは自己銀行債権、自己銀行負債で相殺。預金は現金減、債権増で同額相殺、利子はサービス現金獲得で非対角線要素。

⑤ 会計計量的な詳細証明は以下。 <http://www.geocities.jp/sqkh5981g/END1.pdf>

⑥ 経済本質が一発で判る収入支出行列(超帳簿): {1, 2, 3, ..., k, ..., m, ..., N} は家計, 企業, 国家, 海外等の独立採算の経済活動単位。黒矢軸は各経済主体からの収入(物サービス提供)を意味、赤矢軸は支出(物サービス購入)を意味。対角線要素(k←k)前年度の{+余剰, -借金}=年間(総収入-総支出)に金融財務に相当。経済とは経済主体による**支出配給**が各自への**収入分配**に働く**回転**である事が下図から見える。

	1	2	3	:	:	k	:	m	:	N
1						1←k				
2						2←k				
3						3←k				
:						:←k				
:						:←k				
k	k←1	k←2	k←3	k←:	k←:	k←k	k←:	k←m	k←:	k←N
:						:←k				
m						m←k				
:						:←k				
N						N←k				

⑦ 0サム定理が述べる経済-所得構造:

収入-支出=余剰金(借金)、然るに「欲望冷却冷静にかつ根源的に思考」してみよう。正解は{収入-支出=0}なのである。  
 それでは投資が出来ない?、それが借金=資産同時膨張の**成長神話**、成長が止まれば破綻は必定。ただし農業投資等は担保保障がある?!  
 傷病-失業での蓄えは必須?、国家納税で補償してもらうが筋、北欧等では高額税で、預金は少ない。  
そも支出とは生計のための価値獲得への代償支出、収入とは他人生計の為のサービス代価と見れば、両者が均衡すべき原理が覗ける。  
 確かに一人の創業力が他人多数の為に大規模な利益貢献はある、奨励金としての相応の高所得は必要だろう。だが人一人の生活に  
 桁違いの所得が本当に必要なのか?!、**累進税率**や**相続税**の基本精神は正しい。

....	.....	(1)一般的な場合、 <b>金持ち</b> が居れば、必ず <b>債務者</b> (個人家計, 企業, 行政, 海外)が出る。
20..	収入-支出=+余剰金(-借金)	(2)富裕者が財を減らさねば債務は減らない。 <b>理想極限としての債務0社会は同時に金持ち0社会。</b>
20..	収入-支出=+余剰金(-借金)	-現状世界の状況-
20..	収入-支出=+余剰金(-借金)	(3)少数富豪に富は集中しており, 日本-米国では国民と国家が <b>巨大債務負担</b> の機能(生活格差と困窮)。
2009	収入-支出=+余剰金(-借金)	(4)解消法は唯一、富裕者課税である。 <b>国債発行は逆に富裕と貧困格差拡大に機能。</b>
	累積黒字(赤字)	選挙民と政治家-行政は上記を念頭第一にせねば、現状趨勢は最終的には国家国民破綻へ。

☞: 0サム定理視点で望ましい経済は収入支出均衡、国債発行は本来、富者課税道理を怠慢して、借入で利払いは2重搾取犯罪、  
 2008年日本の国債費用は22.9%=20.2兆(利子払い=10.6%=9.4兆/総額88.55兆)、物凄い盗税。

(5)誰もが飴を配れる者にこそなびく者である。富の富者集中が金権力根源であり、それが**権力没落防止装置**としての国家国民家畜化体制  
 =**軍産CIA-警察国家体制**となる。戦後自民党独裁政治とは国家集金の再分配を握る利権力構造であり、米国に裏支配された欲得結合集団、

(6)国家財政破綻の後に何が起こるか!

地方行政破綻が現実起きてる、カリフォルニア州も事実上の破産、日本も米国も急激な赤字財政膨張、国債破綻になればどうなるか、  
 国家歳入減が長期につづけば債権者は債務不履行を予測して債権購入を控えるだろう。現に米国では長期債権は怪しくなってる。  
 中央銀行は印刷機さえ回転すれば札はいくらでも出来るのでインフレによる\$下落予測、債務破綻では資金-機材サービス購入停止で  
 行政サービス停止が起こる、公務員に収入がなくなる。市民実生活に支障発生、生命危機にもなり得る。

(7)政策インフレの方法:

実質的な借金と資産双方の減額を図る方法、政府歳入に自己負債の本物の偽札印刷をやる。海外では実施されてると言う。

(8)通貨の再設定法: [http://www.geocities.jp/sqkh5981g/National\\_Family\\_Economy\\_System.pdf](http://www.geocities.jp/sqkh5981g/National_Family_Economy_System.pdf)

原理として新規通貨(クーポン券)を年度頭に生活生産の必要に応じて配給、年末回収すれば{収入-支出=0}が強制成立。  
 国民も政府も誰も負債がない事になる<完全0サム経済系>。戦時統制経済、共産主義体制。インフレ進行で、年度途中金欠の場合は臨時配給、  
 年末回収できれば完全0サム経済系。年末納税がいやなので皆物に変えようという動機が作用するのでインフレ傾向?、だがお札量=  
 年度末納税総額は不正がない限りは不変。あるいは**流通通貨総量規定**での**最低生活経済回転保障**になる。資源製品は実質配給制度にしない  
 とまずいだろう。後に議論になる**80%CO2 統制経済**ではこの方法が一つある。

⑧ 市場原理の怪 (需要供給合意で市場の指値は決まる、だがそこでは**圧倒的資金量裏操作**があるでないか!!!):

ブッシュ時代の好景気は巨大嘘の塊だった、9/11 自作自演テロでのアフガンイラク侵攻戦争景気(財政巨額赤字化, 軍需産業は米最大公共事業)、  
 米貧困層を高値推移転売のダシで吊り上げた住宅ロン、借金を各種金融商品混合で世界にばら撒く、かつ債務保険(CDS)と言う取引外第三者  
 債務は前代未聞カラクリ、その市場規模は40~60兆\$!、オバマ政権がAIGを延命救済した理由とも言う。  
<http://www.google.co.jp/search?hl=ja&q=CDS%2C%E5%B8%82%E5%A0%B4%E8%A6%8F%E6%A8%A1&btnG=Google+%E6%A4%9C%E7%B4%A2&lr=&aq=f&aq=>

(1)米国破綻後の世界的背景:

然るにロンドンサミット<[http://www.mofa.go.jp/MOFAJ/kaidan/s\\_aso/fwe\\_09/index.html](http://www.mofa.go.jp/MOFAJ/kaidan/s_aso/fwe_09/index.html)>では各国財政出動と国際金融機関資本増強で  
 当面を凌ぐ合意、だが本質的な世界経済実需牽引力を喪失、長期的再浮上がないのに、新興国需要等をネタにまだまだある**金余り資金**行き場  
 を探ると言う様相、しかし時間が経過すれば、再度繰り返しが起る。0サム定理視点からすれば、実需不況-金融破綻での債務圧縮進行で  
 確かに資産も激減。されど再度、赤字国債財政出動と国際金融機関資本増強での債務増は懲りずに通貨資産を増やす。**危ない民間から公的  
 機関への私資本移動に過ぎない。**然るに実需大恐慌民間では大規模倒産失業貧困増大、政府支出要求は高まるだけ。

だが法人税+個人税も激減である、豊田市をみよ。この次は**歳入激減**の**公機関財務破綻**、然るに今、日米で奇妙な株高が、.....

今回不況の規模甚大性は本来生活に必要な**化粧直し経済の異常膨張性**、従って不況での本来の**生活本質需要**と過去の**需給過剰ギャップ**こそが  
 大規模倒産失業を形成、

(2)現状既成体制のシナリオ: 貧富格差拡大社会の究極。

失業保険半年内に就職できず、蓄えも食い尽くしとなるとどうなる。他方日本では1500兆負債があると言う事はそれ対応の資産家も居る。  
 貧困層圧倒的増大中で資産家は政治動向に気がきであるまい。**富裕層の公債破綻、増税の恐怖**である。危険な一部金持ちの言いなりで何で  
 もせざるを得ない危険な人多数にもなる<貧困層による貧困層への裏切り>。日本で増税と言えバマスコミも政治家も**消費税**しか言わない。

(3)未来シナリオ: 資本主義自滅<0サム定理と世界気候破綻を認めた大人社会究極への再生>。

イタリア、ラクイア G8 先進国間協議では終に **CO2 の 80%削減案が認識**された(G20 での合意は否決)。80%削減量は尋常でない。少なくとも  
 従来生活とは程遠い水準、破綻招来の大気温度下降には**海洋陸上自然吸収量**>(自然排出+人為排出), 80%削減とは地球高温化で**自然排出**  
 が自己吸収に近づいてる証、**海洋陸上自然吸収量**≤**自然排出**となればもはや、救済なしの危機の認識こそが地球生命の命運決定。  
 ちなみにラクイアでは風呂なしの財務警察学校宿舎が G8 エリートに用意されたと言う。続きは付録へ

[2]: 既成マスコミが絶対明かさない、可能性としての北極圏メタン融解破滅緊急問題。

2007 年末まで物理学者である筆者も **気候温暖化問題** と騙されてた。だが実態は現状 **CO2 排出趨勢が持続すれば急変動全球破滅** になる、それは北極圏氷層海面下の浅瀬大陸棚に大量埋蔵される 0 度 C 近傍で **僅少安定メタンクラスレート (MC) 大融解** による、**地球炎熱地獄化** である。問題 MC は **海面氷冠層** がある事での **冷却作用** でその僅少温度安定性が超長期に保障されてきた、だが温暖化進行氷層融解はそれを破壊する。

核心点は **北極圏氷層全面融解** の有無とあればその時期、従来は 2100, 2050, 2030 年と言うモデル計算専門家予言が観測の **急変化する現実** で悉く外れ、最新は **2013 年説** が浮上。問題点は **メタンクラスレート (MC) 大融解破滅** が阻止可能か、いつあり得るかなのだが、北極圏氷層全面融解の数年前後かと思われる。一部に臨界点超過で手遅れの見解もある。英語圏 website を見る限り、**地球工学的的手法** 阻止を言うのは主流でない。

然るに **急速 80% 以上削減** では **即冷却放射増**、海洋要因時間遅れがあるにせよ、温度低下が起こるので現時点で **緊急超対策** は有効と思われる。

具体的には **80% 以上削減** は必須前提、氷層全面融解阻止に関し、太平洋高温海流阻止で **ベリング海峽水門遮蔽** の可能性がある (工事可能性と複雑な地球科学的反動要因を生死を賭けたモデル推計せねばならない)。残るは砂漠地帯等での **大規模植林での CO2 吸収策**、地球市民は **化石燃料制限下での準戦時統制経済** で生き伸びるだけの **困窮生活** を数十年は要するだろう。以下に鍵語を解説。

下記ロゴマークは <http://www.realclimate.org>



[3]: 燃える氷, メタンクラスレート:

(1) 北極海の広域大陸棚構造とメタンクラスレート大量埋蔵: <北極海海底:<http://www.jamstec.go.jp/arctic/mapsearch/locationdepth.Htm>>  
CH4 は同個数の CO2 に比較して 20~70 倍の温暖化ガス (GHG) 効果を持つ。北極海大陸棚は水深 200~300m、そこは周囲を大陸に囲まれ、河川等から超長期流入有機物が堆積、他方大陸棚は海中生物環境だから死骸も残積、500~1000GtC もの大量 MC が埋蔵と推定されてる。10GtC の融解は大気濃度 5.5ppm 上昇、その放射強制力 RF による全球温度上昇は約 1°C、10GtC (純炭素換算重量ギガ ton) は致命量と言われる。

<10GtC, 濃度=6ppm, RF=1.5W/m²:<http://www.realclimate.org/index.php/archives/2005/12/methane-hydrates-and-global-warming/>>

(2) 1°C 上昇の推定根拠: <10GtC 崩壊は無闇に起こる量でない、だが既に北極では数 MtC 融解が観測されてる、G=10⁹、M=10⁶>

[http://www.upi.com/Science\\_News/2008/09/24/Arctic\\_methane\\_poses\\_risk/UPI-33891222231799/](http://www.upi.com/Science_News/2008/09/24/Arctic_methane_poses_risk/UPI-33891222231799/)

(a) 産業革命 (CO2 濃度 = 280ppm) 以来の現在 (385ppm) 温度上昇は 0.8°C、CO2 等価で 20~70 倍強度と言われるメタンで 5.5ppm 上昇は二酸化炭素換算で 100ppm 以上、直線的推定では **1°C 近辺** に達する。実際は濃度が低いほどに温度上昇効果は大で、高濃度では飽和傾向になる。

(b)  $\sigma_0 T^4 = F_0(1-m)/4(1-b) \equiv f$ 。<地球冷却放射量 = 地上入射量 = 太陽入射量(1-地上反射率(m))/4(1-GHG 捕獲率(b))>: b は GHG 濃度の非線形関数、☞ 生の太陽入射量よりも **温暖化ガス (GHG) 効果** で地上放射入力は増大する、それが b 項の重大な作用。

(c) IPCC 放射強制力の定義に合わせて計算する: <筆者には不明部分もあるし、一義性に疑問を言う研究者も多い>

産業革命時標準:  $\sigma_0 T(1760)^4 = F_0(1-m(1750))/4(1-b(1750)) \equiv f(1750)$ .  $T(1750) = 273 + 14 = 287^\circ\text{C}$

$\Delta f(2009) = f(2009) - f(1750) = 1.6\text{W/m}^2$ 。<正味放射強制力増>: <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%94%BE%E5%B0%84%E5%BC%B7%E5%88%B6%E5%8A%9B>

☞ f(1750) が不明。

温度 T と放射強制力 F の増分関係:  $\Delta f = 4\sigma_0 T^3 \Delta T = (4f/T) \Delta T$ . →  $\Delta T = (\Delta f / 4f) T$ . <T(2009) = 273 + 15, T(1750) = 273 + 14>、

ここで  $\Delta f = 1.6\text{W/m}^2$ 、 $\Delta T = 1^\circ\text{C}$ 、 $T(1750) = 287$ 、とすれば  $f = T \Delta f / 4 \Delta T = 287 \times 1.6 / 4 \times 1 = 114.8\text{W/m}^2$ ?

然るにさらに **メタン RF=1.5W/m² 増大** での温度上昇:  $\Delta T' = (\Delta f' / 4f) T = (1.5 + 1.6) 277 / 4 \times 114.8 \approx 1.9^\circ\text{C}$ 、 $\Delta T' - \Delta T = 1.9 - 1.0 \approx 1^\circ\text{C}$ 。

$F_0 = 1366\text{W/m}^2 = \text{original solar heat input/unit area}$ .  $R_E = 6.38 \times 10^6\text{m} = \text{Earth radius}$ ,

$m = \text{albedo} (\approx 0.4) = \text{reflection (by white clouds, ice sheets) probability for } F_0$ .

$b (\approx 0.48) = 1 - a$ ,  $a = \text{passing probability of cooling radiation through GHG}$ .

$\sigma_0 = \text{Stefan Boltzmann} = 5.67 \times 10^{-8}\text{Wm}^{-2}\text{K}^{-4}$ . >constant in pseudo cavity radiation.

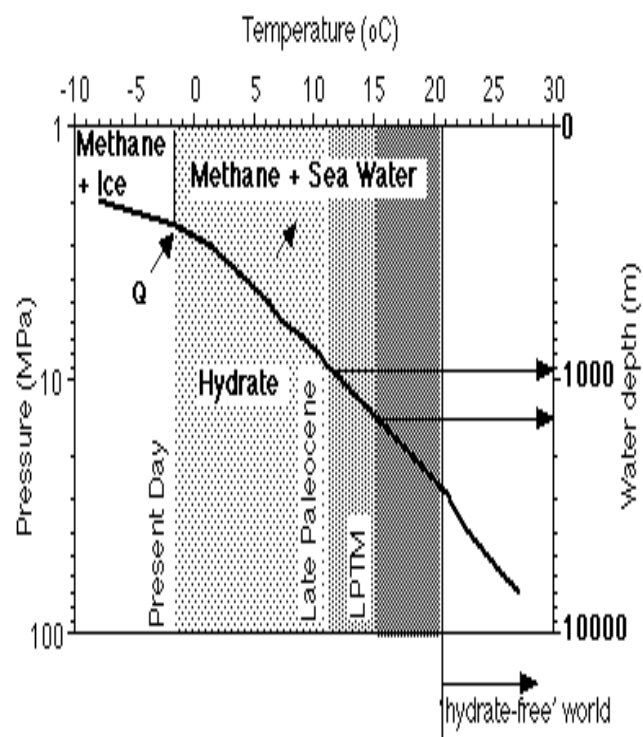
☞ 常識での室温 1°C 変化など無視可能、だが全球を 1°C 暖める膨大なエネルギー量を想像されたし、それが気候暴走と生命環境破壊を誘発、

(3)燃える氷=メタンクラスレート(MC)とその過去。



生物の中心的元素は炭素、その死骸が主に水中に沈殿してメタン菌反応で MC が大量生成され、超長時間で海底等に蓄積される。  
古気候研究によれば PETM(5500 万年前)、ペルミアン末期(2,5140 万年前)の 2 度、メタン融解が気温上昇、それが更に融解誘導の正帰還で生命種が大絶滅の事実がある。高温急上昇と酸欠が大規模に発生での絶滅、生き延びたのは地中生物か、深海生物のみだろう。

(4)北極海氷層下での僅少な温度安定性 :圧力 P, 温度 T と気体-固体相転移図 :Clathrates: little known components of the global carbon cycle.  
<http://ethomas.web.wesleyan.edu/ees123/clathrate.htm>



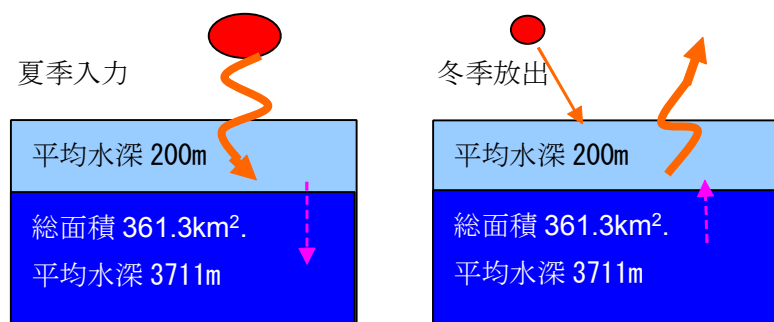
MC 融解には 440. KJ/Kg. K の融解熱が必要(氷=334. 7KJ/Kg. K)、それらの比熱は 1/100 以下。従って海洋中、海底土中の熱伝播量が重大、  
上図で「0 度 C が水深 200m 弱に対応」、これが一つの目安、

- \*水深 200m 以下では 0 度 C 以下温度でないで固体相安定性がない事が読める。と言う事は海水は過冷却温度、しかも浅瀬なので  
氷層融解で海水面開口なれば直射日光入力、その熱は 100, 200m まで直達と言う。過冷却水は非常に熱的動作が特異、それは力学的衝撃で瞬時に液体-固体に相転移、この時、実は固体化に伴うエネルギー減少分の熱外部放出の逆事態が起きる。
- \*200 以下水深では海洋大熱容量をまず熱して後に MC 熱入力の手順だから、時間遅れが期待できる、が 100m 熱拡散はそう時間を要しない。
- \*なほ通常海洋の 1000m 深海での MC への熱伝播には海洋大規模熱容量での緩和時間が数十、数百年の時間遅れがあり、当面の初動的問題はなしと思われる。しかし北極発端で全球異常温度上昇が海底伝播すれば破滅加担になる事は変わらないだろう。

(5)北極海は小さい風呂桶?! :

夏季の季節変動氷層 2/3 の融解熱量で水深 200m 北極海水全部が 0.7 度 C も暖める事が可能、ちなみに全球海洋が現状趨勢の全球過剰入力熱で 1 度 C 上昇には 400 年もの長期がかかる。北極海熱容量は全球海洋の 1.4%。北極点の白夜最大日射量は意外にも赤道以上!!

一季節周期で見る夏季海洋熱入力と冬季熱放出: 全海洋熱容量-



全球季節周期(動的)等価熱容量はほぼ海洋水深 200m に集中、大気は 0.1%, 陸上も日夜変化を見れば同じ程度。産業革命(1850)前の全球温度は 14°C で固定、その当時は夏季に熱入力で海洋は温度上昇、冬季には入力分をそっくり放出する事で平衡定常温度だった。その熱交換に対応する等価海洋深度は 200m, 直射日光到達の水深 100, 200m にも対応。だが産業革命後の温度上昇は徐々に 200m 以下の深海にも熱流が向く。圧倒的熱エネルギーを支配の海洋流動作が大気圏運動を支配。

\*<http://www.ecd.bnl.gov/steve/pubs/HeatCapacity.pdf>

\*<http://www.oceansatlas.com/unatlas/about/physicalandchemicalproperties/background/seemore1.html>

(6)メタン破滅警告の参考サイト:

「何時は判らない、だが何時、大規模破滅が起きてもおかしくない」、ロシア北部沿岸のメタン噴出を観測する科学者証言、

<http://www.spiegel.de/international/world/0,1518,547976,00.html>

<http://www.killerinourmidst.com/index.html#anchorContents>

P49. CONCLUSIONの漫画は破滅と救済を一発で全要約してます。

[http://www.cdf.u-3mrs.fr/~henry/presentations/hydrates\\_paris6.ppt](http://www.cdf.u-3mrs.fr/~henry/presentations/hydrates_paris6.ppt)

既成知識情報しか取り上げない保守派のWikipediaすらも破滅問題を掲示してる。

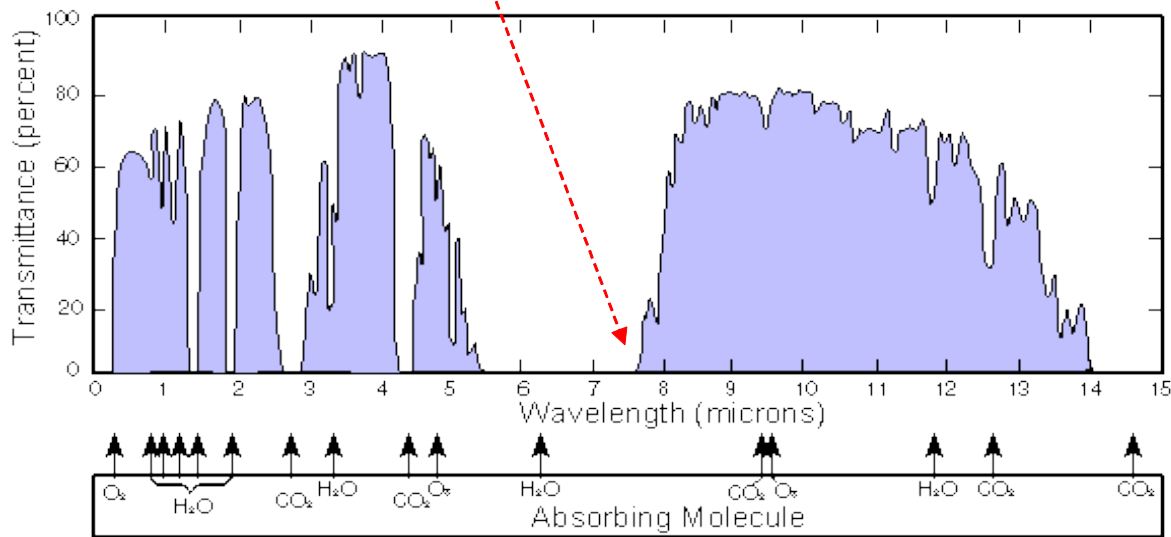
[http://en.wikipedia.org/wiki/Arctic\\_shrinkage](http://en.wikipedia.org/wiki/Arctic_shrinkage)

[http://en.wikipedia.org/wiki/Arctic\\_methane\\_release](http://en.wikipedia.org/wiki/Arctic_methane_release)

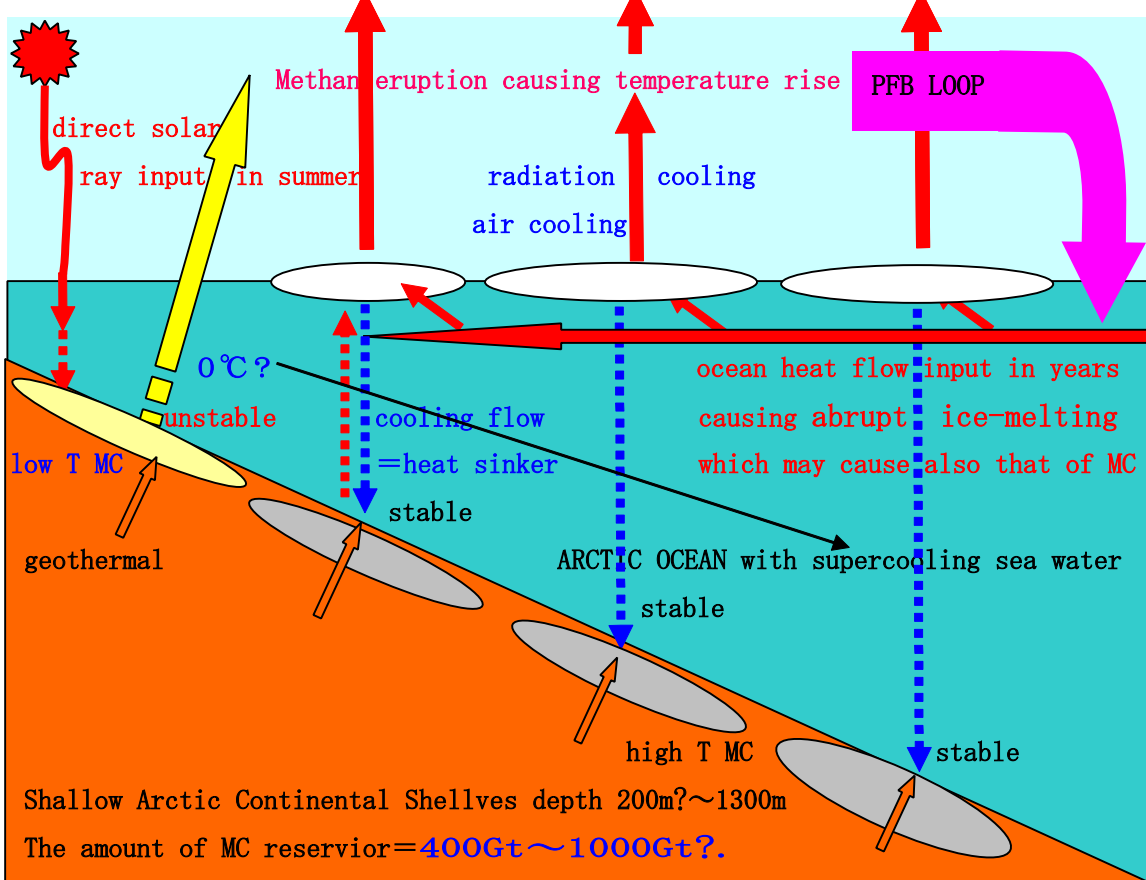
付録1：メタンが地球冷却熱放射線の宇宙放出への阻害に強力な理由。

[http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/6/6a/Atmosfaerisk\\_spredning.gif](http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/6/6a/Atmosfaerisk_spredning.gif)

メタンの赤外吸収のピーク波長は7.6 μm付近にあり、水蒸気や二酸化炭素による赤外吸収がほとんどない窓領域と呼ばれる波長領域 (8~14 μm) に一部吸収が重なるため、微量ながらも温暖化効果は比較的大きいとされる。



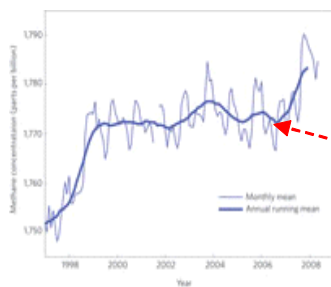
付録2：北極海海底/急峻メタン破滅の可能性:



- (1)Next event after **abrupt ice-cover melting** at sea surface in Arctic ocean may be that of MC in **shallow continental shellves**.MC is ice like unstable solid by heat.Then MC in more shallow sea flor is cooler,which accelates heat flow. Since a heat flow from high temperature into lower one(thermodynamic 2nd law).
- (2)Then problem is **heat transfer time** to MC.100m depth is zone of solar ray direct input,200m may be in a year,and 1300m may be few years.Generally to tell,ocean is so hudge heat capacity that heat up time is long as decades.
- (3)However,once MC eruption in sea flor had begun,it becomes stronger GHG to accelate global atmospheric temperature rise by vicious feedback looping.Then if **man-made GHG reduction action** became late,the process could not be stopped to become catastrophic point. MC of **10Gton** release could be catastrophic.
- (4)Remarkable **singularity of Arctic ocean with ice** may be the 0°C sea temperature.Fundamentally such cobeing of matters in different phase called **critical point**,where **dynamic heat capacity of water is fundamentally zero**.Since heat uniquely flow into ice.Consequently it may act **the abrupt ice-melting in Arctic,which shall enhance direct solar ray input to the ocean**.

付録3: Unexpected rise in global methane levels.<2007年後の大気中メタン濃度の急増>

<http://www.nature.com/climate/2009/0904/full/climate.2009.24.html>



The average atmospheric **concentration of methane shot up suddenly in 2007**, having remained stable for a decade. Data shown are from the Advanced Global Atmospheric Gases Experiment and the Australian Commonwealth Scientific and Industrial Research Organisation, courtesy of Matt Rigby.Full figure and legend (21 KB)

付録4: unkown factor for **the amount of MC reservoir** in Arctic continetal shellves.

The minimum value is 400Gt,while the maximum is 1000Gt<<http://www.ecord.org/>>. The location distrubution is far unknown,they said.Then you should see map of Arctic ocean,which is almost shallow big pond with many rivers from continets.Its very natural to think hudge amount of organic compounds synthesizing methan has been accumulated there in the long long history.

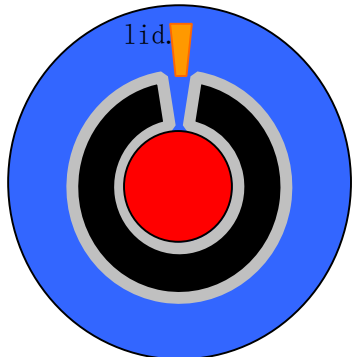
付録5: CO2 濃度の引き抜き削減で地球気候正常化への可逆性根拠: '09/8/5.

産業革命(1850)での CO2 の濃度 **280ppm** から現在(2007) **385ppm**. 100ppm 濃度上昇で,全球平均 0.8°C 上昇だから,直線的推定で,20ppm/10 年の引き抜きでは 0.8°C×20/100=0.16°C 下降が期待される。最低安定化目標は 350ppm と一いついわれる。ただし前提として  
**北極海氷層の全面融解がない事が緊急要請**, でないとメタン融解破滅危機問題が起こるともう引き返しが無いだろう。地球温度が上がると、自然自体が CO2 大規模排出に転じ、それは一層の温度上昇の正帰還に作用で大破滅、削減施工は時間との勝負!!!

**①熱力学第二法則<遮蔽された系は熱死する !! 逆に開けば生命回復 !!! >:**  
 熱流や物質流れのない閉じた系では、エントロピ量 S は一途増大傾向になる、従って S 最大値で状態は安定固定化する(熱死)。S は物質秩序混沌度に関する物理量、分子が整列結合してる氷は若干バラバラ気味の水よりも秩序が高い、水蒸気分子は全く無秩序で水よりも高い。地球温度上昇により、気候暴れが増大傾向、生命環境汚濁進行での生命種絶滅進行などは S 増大傾向を意味する。放射熱遮蔽効果を持つ CO2 増大は地球の閉鎖系への接近を意味、従って、**遮蔽要因温暖化ガス**を取り除き、地球過剰熱を宇宙空間へ散逸する状態にすれば正常化回復が成る。

If heat could disipate through **atmosphre** to **cosmic space**,nothing trouble woud be.

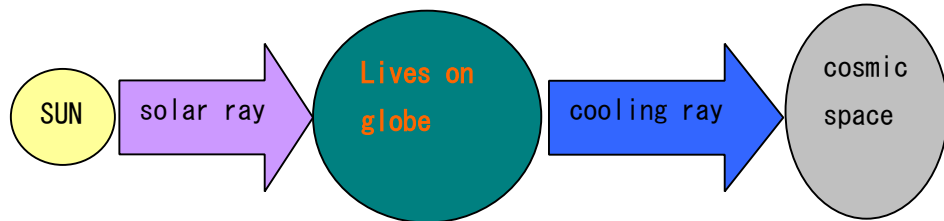
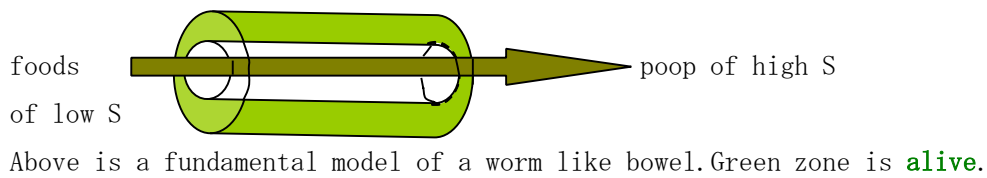
(1)熱的閉鎖系の典型模型:真空魔法瓶:



左図の一つの穴(栓に対応)の開いた空洞(赤部分)を持つ 2 重構造ガラス球。**黒色部分**は真空、だから通常の熱伝導は遮断されてる。だが真空は電磁波(熱エネルギー転化)は通過する。そこで灰色部分をガラス鏡にして電波反射壁にして熱遮蔽。かくて赤内部とブルー外部は熱遮断できる。赤部分を地球と見ればブルー外部は宇宙空間、然るに灰色部分こそが冷却電磁波放射阻止に働く温暖化ガス(GHG)。{CO2 やメタン CH4}は地球の魔法瓶化に作用してる。

\*但し GHG {CO2 やメタン CH4}は**太陽直射光**熱は透過、地球からの**赤外線**冷却放射は阻止に作用、  
 太陽入射熱量-地球冷却放出熱量=地球通年蓄積熱量> 0

(2)非閉鎖=開放系典型模型としての生命系とエンロピ流れ：〈生命系特徴は呼吸、血流と食物流と流れその物の開放系〉.



Left fig is a fundamental model of non-closed ordered system of **alive earth** with energy flow balance, but actually about 1/365 imbalance now is on increasing. In general, a stationary flow in non-closed system tend to cause **heart beat** with constant frequency.

②Reversibility of large heats reserved in oceans:

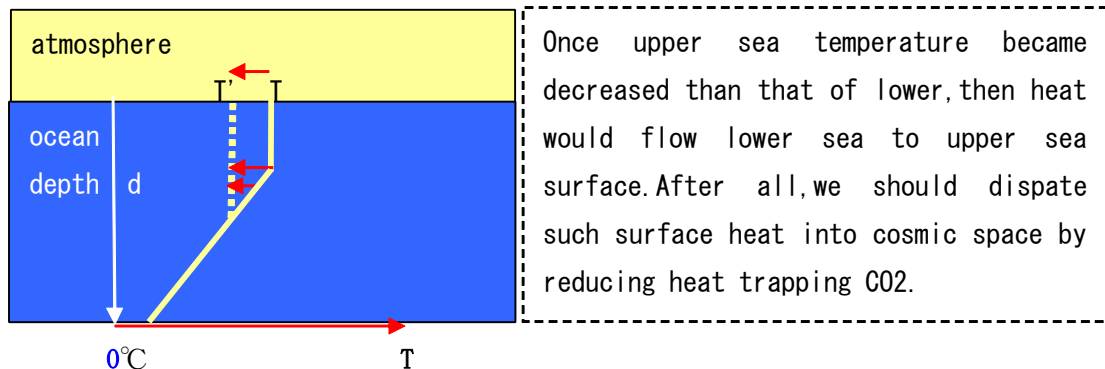
温暖化問題で、海洋大量熱貯蔵にあるから、GHG削減でも何百年も海洋慣性で温度低下がないと言う議論がある。  
 だがGHG削減は魔法瓶の開放間口を広げる事であり、その間口広さに比例して熱放射流が即座開始は明白!!!。  
 確かに海洋熱大容量は短時間で温度低下を許容しないが、GHG削減過程では、温度上昇が何十年という過程の逆を辿るのである。  
 ちなみに大熱容量の海洋深海部分は温度が低く、かつ密度は高く安定、熱は低い所から高い所へは流れない。

(1)Ocean the largest heat reservoir:

Global heat capacity is uniquely concentrated in oceans of 99.9%(?)<[http://www.radix.net/~bobg/climate/heating\\_rates.html](http://www.radix.net/~bobg/climate/heating_rates.html)>.  
 Then surplus heat(=input-output>0) caused by CO2 heat trapp has been reserved in oceans. That is ocean averaged temperature increased since industrial revolution(1850). In generally to tell, ocean temperature T distribution is that lower T water is deeper due to its heavier density. Therefore, so long as this distribution is hold, reversal heat flow from deeper ocean could not realized.

(2)Kickback heat flow from inverse temperature gradient≡ocean thermal:

Note that a heat would flow from higher temperature zone to lower one. The reversal situation never occure at all.  
 Once we get lid off of heat trapping gas in atmosphere, cooling radiation from globe instantly become increasing!!!.



It is not that all of ocean hudge heat would flow to surface at once. It would be very slow change in long years by depending on decreasing of CO2 concentration. By anyhow, once we get rid of heat trapping gas in atomosphere of T(t<sub>i</sub>) at time=t<sub>i</sub>, corresponding cooling radiation flow(J=CΔT/Δt=ΔQ/Δt change) become enabled.

$$\Delta T = T(t_f) - T(t_i) < 0,$$

$$\Delta t = t_f - t_i,$$

C<sub>G</sub>=equivalent dynamic heat capacity of globe=ΔQ/ΔT=how much heat is necessary to warm up 1°C.

Virtual equibrioum temperature T(t) is a fuction of albedo=m(t), and heat trapping probality=b(t), where "t" is time. R<sub>E</sub> is earth radius, σ<sub>B</sub> is Boltzman constant.

$$\pi R_E^2 F_0 [1-m(t)] / [1-b(t)] = 4 \pi R_E^2 \sigma_B T(t)^4.$$

'09/2/2, 8/6. <前代未聞の世界大不況生活危機と背後に忍び寄る惑星絶滅危機の同時対策問題!!!>.

<現状最優先として 2013 年全面融解予測を考慮、GHG 劇的削減での北極海凍解停止を図る、失敗すると全球破滅!>

## 一全世界 80%以上炭素エネルギー削減率での政策と生活??!!一

現状趨勢は誰もが真相認知を恐怖し、目前世界不況と雇用生活不安だけをひたすら議論だが、より大局的優先政策課題は人類生存是非を欠けた気候変動破滅問題対処の方になる。80%以上の炭素エネルギー削減(09/7/7 イタリア、ラクイア G8 間では始めて認識声明)は厳然とした破滅回避条件です。これの認知が無いと世界破滅、勿論この数字では従来経済は成立しない、しかも決断時間も少ない。勿論財界労働界は大反対するだろうが、彼ら意見は別としても科学的真相だけは事前確保すべきです!!! 次期政権は、その時にあわてない為に絶対必須事項です!!! 現状はまだ国民全部に食糧-住居提供総量確保にあり、国民生命を保証できる点は救いですが、何しろ超重病人ですから、従来生活を望めない準戦時体制を国民は認識すべきです。全世界許容 20%許容炭素エネルギー消費での最低限度の生活、基本は共通して食糧-住居提供総量確保です。

”気候科学と経済政策等に関する関係者+科学者総動員での誠実正確な答申”と国民了解が全てを決する事になります。

気候変動科学もエネルギー総量管理経済政策もものすごいシュミレーション作業になります。これらが無視されると後戻り可能時点(201X年?)を越えればもはや救済は不可能になります。決断時期が遅れるほどに消耗可能炭素エネルギー総量は20%から減少するでしょう。

戦前陸軍部は対米戦争可能性に鑑み、秋丸機関を設置、当時の気鋭経済学者である有沢寛臣(ひろおみ)博士を招請して、シュミレーション解析作業を命じたそうです。その予測は現実をよく表したといわれています。今の若人にすれば己将来の命が掛かる真剣勝負ですからこの作業計画には早急な指導者育成訓練としても若手抜擢が薦められます。

科学者+関係者総動員解析作業体制予備としての '09/2/2, 8/6  
世界破滅回避問題事前情報収集の為の素案(project the GLOBAL RAMADAN)

### ①気候急変動予測解析(地球科学, 気候変動解析) :

①北極圏メタンハイドレード融解破滅問題の時間推移解析 :

②全球炭素エネルギー制約問題 炭素削減率 R = 80%以上!!

\*Global Carbon Budget=Unless 80% reduction, the recovery is no more hope!!.

<[http://www.globalcarbonproject.org/global/pdf/GCP\\_CarbonBudget\\_2007.pdf](http://www.globalcarbonproject.org/global/pdf/GCP_CarbonBudget_2007.pdf)> (p19).

(1)carbon budget :

year (man made+natural)emitt and (oceans+land)sink by photosyntheis.	
+man made emission=7.5PgC/y	P=10 <sup>15</sup> . C is carbon standard.
+natural emission =1.5PgC/y.	For example)
-Oceans sinks =2.3PgC/y	CH4=16g, but C=12g.
-Land sinks =2.6PgC/y	CO2=44g, but C=12g.
+atmospheric accumulation=4.2PgC/y	

(2)Target reduction amount=atmospheric accumulation+natural emission  
=4.2PgC/y+1.5PgC/y=5.7PgC/y.

(3)Target reduction rate=Target reduction amount/man made emission  
=5.7/7.5=0.76=80%!!!!。

③決断を先延ばした時の使用可能総量率 P = 20%の減少推移時間解析。

④気候回復までの窮乏生活期間の時間問題(北極圏表層融解拡大と GHG 自然放出停止!!)。

当面は北極海凍解早急停止, 失敗だと破滅!! , (以下 C は炭素基準量)GHG 削減で全球温低下へ即答(要補足)、安定化達成には産業革命後 200 年間に増大した

(380-280)ppm=80Gt=220GtC の 1/3 程度=80PgtC の炭素を最低, 吸引せねばならない!

自然界全吸収 4.2PgC-80%削減率全放出量(1.5+1.5)3PgC=1.2PgC の年間引き抜き量。

80PgtC/1.2PgC=70 年。皆様は 60~70 年間程度!の禁欲ラマダンに耐える必要があります。

J. Hansen は引き抜き目標として 350ppm を提唱、220GtCx(380-350)ppm/100ppm=66GtC、60PgtC/1.2PgC=50 年。



\*計算根拠のCO2 budget:大気中CO2 総重量=3.05Tt (380ppm), 1ppm=8Gt.

(1)280ppm(1800)→380ppm(2006) CO2 increasing. <industrial revolution≡IR≡1800>

Weight ratio 380/280=1.36times、3.05X(1-1/1.36)=**0.8074Tt increasing.**

Before IR : 2.24Tt→**0.8070Tt increase**→now=**3.05Tt**(CO2 concentration=380ppmv)

(2)Carbon emitt in 2006=1.5Gt+7.6Gt=9.1GtC。land&ocean sink=5.0GtC. (C 基準量)

emitting amount/year=**4.1GtC. CO2conv=15Gt.** ⇔ 1.88ppm(観測値=1.9ppm)

<[http://www.globalcarbonproject.org/global/pdf/GCP\\_CarbonCycleUpdate.pdf](http://www.globalcarbonproject.org/global/pdf/GCP_CarbonCycleUpdate.pdf)>

## ②化石燃料配給経済問題の予測解析:

基本的には爆弾が無い**窮乏戦時体制**(気候変動解析より超複雑系解析化?!)

発想転換と生き延びる為の**アイデア次第**で破滅回避策可能!!!!!!

以下国際協定成立の仮定で筆者推測で簡単に想いついた限りを要約、詳細は判らない。

①炭素使用可能総量P下での望まれる経済-国民生活政策と**国際協定**のシミュレーション解析。

全球20%だと日本は温暖地域だから多消費北方諸国に余力譲渡を迫られ15%?の可能性も

②**優先産業政策**(食糧生産流通通信-非炭素エネルギー開発生産)配給問題:

50年前生活を想定すれば技術的に不可能と言う問題でない!、**意識変革が当面大問題??!**

基本は回復期まで超大量失業下での住居、**食糧確保と最低エネ確保**だけに集中するだろう。

(1)**大量廃業産業&大量失業者出現と生活対策=民族田舎大移動:**

20%が即全エネ20%の意味でないが非優先産業は廃業不可避化、超大量失業発生不可避。スーパーでは電力は冷蔵庫だけ、学校も雨でなければ校庭授業、工業製品は修理使用しかない。ともかく優先産業以外がほぼ停止だから、大量失業者、ここで共存哲学を欠くと社会混乱。爆弾投下は無いのだから国土利用効率化での自給食糧確保が緊急課題になるだろう。

(2)**食糧優先; 地産地消自給自足**が最善なのだから、この方向政策=民族田舎大移動:

(a)輸入輸送エネ削減もあるので国内調達志向へ、**地産地消では農地再生回復が問題化**、しかし現状は地産地消とは遠いので商売大幅破綻での消費地都会は生産地への支払ができないから人頭労働力提供しかない(疎開出稼ぎ)・この人口移動に伴う住居不足は非労働田舎人の都会移住で相殺。西部開拓同様に生産地は男世界化、消費地は女性子供老人病人になる。要は総生産量と総分配に関わる平衡化。食糧生産では米と生鮮野菜は大方国内供給可能なのだろうが、蛋白質生産に関わる養鶏養豚等と飼料生産が早急課題になる。暇農地の利用と工場跡地の農地化?、長距離輸送は**高効率の鉄道**一本に絞られる。総量として住宅量はあるので**新規造成は無用エネ消耗**だから賃貸制度充実を図る。労働時間が短くなる分、生活改善の学習や自発研究が奨励される。

(b)人材海外派遣での農業生産や新エネ技術での協力開発。第二外国が重視。国際間の技術と人口最適配置の全球的シミュレーションも不可避。

(c)**気候安定化に至るまでの国際間臨時的人口移動の超大問題。**

砂漠進行アフリカでは人口移動への強制力が働いてる現実がある。住居や食糧で余力ある米国等の寛大な受け入れ是非が問題になる。

今度は日本人がブラジル農園等に大量出稼ぎする必要も起こる。

(d)**地球規模植生回復計画:**

砂漠緑化と荒廃森林等の再生で炭素吸収を図る。海温上昇での炭素吸収海洋中植生に異常が進行してると言う。かような地域に適応できるプランクトン**大量移住**させる技術開発。

(e)**ベーリング海峡大水門建設**(幅86km, 最大深度42m):

北極急速融解はメタン破滅に直結可能性、主因の太平洋熱海流阻止としての**緊急水門建設**、但し反動の予測シミュレーションが必須、

[http://www.geocities.jp/sqkh5981g/Bering\\_Strait.pdf](http://www.geocities.jp/sqkh5981g/Bering_Strait.pdf)

(3)**非炭素エネルギー技術優先策:**(生活改善指導マニュアル要)

(a)簡易な太陽熱湯沸かし器、天窓改装採光、屋上屋根簡易緑化、空地の全面農地化。意外に簡単低価格な方法で結構効率良い方法がある。

生ごみ尿尿自家発酵でガス調達できる。この手の**簡易アシスト機材**需要が起こる。

(b)既存技術の太陽光風力潮干力地熱、水力発電、原発、自然廃棄物発酵ガス利用(燃料電池)

これらの生産に伴う化石燃料に制限がある事を前提しないと意味なし。

(c)**乗用車、長距離トラック、飛行機無用**と市内移動は自転車-路面電車復活&**鉄道大活用策**、

要は**交通システムの決定的構造改革**不可避、技術屋と経済屋の相談次第、

(d)高効率帆船化**改装**技術開発・高効率飛行船技術、

(e)インターネットは双方向通信、大域速報で一層必須化する。

③**財政政策**： 税収激減と議員公務員給与大幅削減、軍備国債費0、金融国有化。

基礎優先政策と国民生活確保への集中投資化。生活保障としての食糧とエネだけです。税収激減なので**政府発行紙幣依存、高インフレ進行が避けが、これしか方法がない。**要する戦時中の政府政策と国民生活を想像、ただし爆弾投下だけではありません。

③**国民心理動向の予測解析**：

- ①不要混乱回避の為に事実公知にあつて国民応答を事前に想定すべきである。
- ②時間余裕と**国民超再教育**、宗教教育、宗教は本物です!! ;③長期窮乏期間の心理動向対策。

④**司法警察軍事-教育医療対策**：

上記政策施工にかかわる行政実力確保。**税収激減**だから**地元志願者**での行政代行あり。

補足：ざーと見ただけで物凄い大規模シミュレーションになります。全員集合で大議論とアイデア出し合いが決め手でしょう。

だから国民、世界人の総知恵結集とその速報広報情報伝播が必須でしょう。やればまだ20%使用可能ですから今ならば間に合う可能性が強いでしょう。最大問題は従来の麻薬ずけ生活真相に目覚めるかどうかです。到底未完成ですが、至急送付します。

余談：

東洋慣わしには東洋人自身も非東洋人にも今一偏見がある。その一例は切腹作法とラマダン。死刑制度是非はさておき、海外では日本の残酷な風習と見られてるが実は逆、死に行くべき者への見送り人の最大敬意と本人自覚での死の儀式と無闇に死刑適用ならない為。

全員正装で見送り儀式に立ち会う、多数立会人にも非常につらい事である事だ。それは無闇な切腹適用の抑制と死罪に至る事への参加者全員への戒めが強い。死に行く者は最後に辞世の詩を読み上げ、その人格威厳を確保する。死は本人が腹に傷を入れる死への決意自立意思で始まる、介錯人は死に行く者の最後苦痛を除く救済者としての意味になる。

ラマダンはムスリムの断食儀式で、これも一つの苦痛儀式であるが、日没後夜半は逆に信者多数会食での喜びの時間になる。彼らの言い分では食えない人への慈悲を喚起する儀式であり、またイスラム教徒である自覚団結と意思強固を推進する要素であろう、現実世界には大規模飢餓があるのに先進国では退廃的な逆の飽食障害問題がある。世界はこれから食糧危機に向かうにおいてこれは見習うべき儀式だ。病人や都合悪い場合は免除されるらしい。慣れてくるとさほどに苦痛でないと彼らは言う。

追記(09/8/6)：その必要性から英文から書き始めたので、和訳のない転載箇所がある。ともかく人手と時間がない!!!

今日は広島原爆投下日、米国原爆開発関係者以外で当時の日本人(世界人)があので地獄模様を想像できただろうか。  
然るに今、北極全面融解2013年が指摘され、その海底メタン破滅可能性が緊急化、もし皆が無視すると広島類似の  
全球熱地獄が待たせよう。広島がこの問題も提示しなかったは残念、次の長崎を期待します。